

下関市立大学広報

2003年10月1日 第41号

発行

下関市立大学広報委員会

山口県下関市大学町2-1-1

TEL 0832 (52) 0288

FAX 0832 (52) 8099

http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/

(題字 中山尊名誉教授)

オープンキャンパス2003開催

好天に恵まれた8月2日(土)、毎年恒例のオープンキャンパスが開かれた。近年、オープンキャンパスは、受験生が大学を選択する材料として大きな意味をもつようになってきている。そのため、受験生のニーズに対応したメニューをそろえるべく努力している。さらにオープンキャンパスは入試のための行事という認識を改め2002年度から高校生だけでなく一般市民にも知ってもらう方向に拡大した。

今年度のメニューは、全体説明、大学紹介、個別相談、模擬講義、模擬海外研修、コンピュータ体験、大学院入試説明会、大学院生研究発表会、図書館ツアー、学内施設ツアー、キャンパスライフQ&Aである。昨年度の反省を踏まえてメニューも若干の変更を加えている。模擬講義を各学科、同じものを午前、午後2回おこなっていたものを1回にしたこと、産業文化研究所の地域研究講演をやめたこと、コンピュータ実習をやめ自由開放だけにしたこと、キャンパスライフQ&Aを新たに始めたことなどである。全体的にメニューを自主選択できるように変更している。また、「学食」の雰囲気味わってもらうために、参加者が生協食堂で昼食をとれるようにし、飲料サービス券も参加者全員に配布した。

さて、以上のようなメニューをそろえたオープンキャンパスだが、その成果はどうであったろうか。まず肝心の参加者数は279名であった。2000年度が229名、2001年度が288名であり残念ながら昨年度を9名下回った。



参加者の増加をめざして広報活動に力を注いだ、結果として思うように参加者が伸びなかった。とくに一般市民の参加が少なく今後の課題となった。今後、広報活動の検討が必要とされよう。

しかし、参加者に対するアンケート調査によると、オープンキャンパスはおおむね好評であった。オープンキャンパス全体の評価についてアンケート回答者104名のうち、「良かった」が71名(68%)、「普通」が32名(31%)、「良くなかった」が1名(1%)となっておりまずは成功といえるだろう。全般に関するいくつかの自由意見をあげてみよう。



「説明や模擬講義は、具体的に興味深かった」、「とても設備の完備された良い環境で、素晴らしい大学でした。是非、下関市立大学で勉強したいと思いました。就職に対する対応もとてもよく、勉強に集中できるような環境や、熱心な先生方でもとても素晴らしい大学でした」、「とても良い学校だと思いました。絶対行きたいです」、「パンフレットなどで頭の中だけでは分らなかったことが実目で見る事ができ、とてもよかった。また学生と話ができてとても参考となった」など。

各メニューについても評価はよい。模擬講義については、「どういう学科かよくわかった」、「先生のお話がとても興味深く、おもしろかった」、「高校の授業と違う大学の講義を体験できてよかった」、「経済学のことをあまり知らなかったけど、わかってきたので面白かった」、「アジアに興味があった」、「自国だけでなく他国がどういう状態であるのかわかった」など。また模擬海外研修については「マーク先生の話がとても面白かった」、「韓国語についての話を聞いたが講義が楽しかった」、「中国語コースがとても楽しかった」など。

改善すべき意見もいくつかあったが、いずれもメニューそのものでなく、「(大学の)場所が非常にわかりにくく、迷ってしまった。……」、「話が聞きづらかった」(マイク)など技術的な側面であった。この点は来年度改善すべきであろう。

近年、高校と大学との連携の必要性が認識され、山口県でも2002年度から2年間の予定で高大連携教育実践モデル事業が始まっている。下関地区と山口地区がモデル地区に選定され、地域内の大学が高校との連携に協力することになっている。このため県内の高校からの出前講義の要請や高校が大学にたずねて来るケースが急増している。このような動きは今後一層高まるであろうし、市民への大学開放の推進のためにも、1年1回のオープンキャンパスだけでなく、「広い意味でのオープンキャンパス」にむけて大学側も積極的に対応していく必要がある。その意味で昨年度、今年度とも一般市民の参加が少なかった点に最大の課題がありそうである。

(文責・オープンキャンパス企画委員長・吉津直樹)

2004年度入試の概要

◆推薦入学

○全国推薦

2003年11月22日(土) 小論文

○地域推薦

2003年11月22日(土) 小論文

◆特別選抜

○帰国子女特別選抜

2003年11月22日(土) 小論文(日本語による)/面接

○社会人特別選抜

2003年11月22日(土) 小論文/面接

○中国引揚者等子女特別選抜

2004年1月24日(土) 小論文(日本語による)/面接

○外国人留学生

2004年1月24日(土) 小論文(日本語による)/面接

◆一般選抜

○前期日程 2004年2月25日(水) 下関・大阪

前期日程試験の実施教科・科目及び配点

○公立大学中期日程(旧C日程)

2004年3月8日(月) 下関・大阪・福岡

公立大学中期日程試験の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・国語(『国語Ⅰ・国語Ⅱ』のみ)、 地理歴史、公民、数学、理科、外国語から2科目(2教科)採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1. 最も得点の高い科目をさらに300点満点に換算し採用する。 2. 次に得点の高い科目を200点満点のまま採用する。 300点+200点	300点	
国際商学科	・外国語(必須) ・国語(『国語Ⅰ・国語Ⅱ』のみ)、 地理歴史、公民、数学、理科から1科目採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 1. 外国語を300点満点に換算し採用する。 2. 外国語以外のすべての科目を200点満点に換算し、最も得点の高い科目を採用する。 300点(外国語)+200点	300点	

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・国語(『国語Ⅰ・国語Ⅱ』のみ)、 地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)採用	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算し、得点の高い順に3科目(3教科)を採用する。 200点×3	200点	
国際商学科	・国語(『国語Ⅰ・国語Ⅱ』のみ)、 地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)採用 ※ただし、この3教科の中に数学か外国語のどちらかを含むこと。	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1. 数学か外国語のうち得点の高い方の科目を採用する。 2. 1.で採用した科目以外の科目のうち得点の高い順に2科目(2教科)を採用する。 200点×3	200点	

※前期日程、公立大学中期日程(旧C日程)とも「国語Ⅰ」は選択科目から除く。地理歴史と公民からは1科目のみ。

◆編入学 2003年11月22日(土) 小論文/面接

大学院入試報告

※2004年度入学試験(第一次)

大学院経済学研究科では、下記の要領で2004年度入学試験(第一次)を実施した。

日 時 2003年9月20日(土) 午前9時より

募 集 経済社会システム専攻5名

国際ビジネスコミュニケーション専攻5名

選考方法 一般選抜・社会人選抜・外国人留学生選抜

研究指導科目は次の22科目である。

経 済 シ ス テ ム 分 野: 理論経済、経済学史、世界経済史、日本経済史、金融経済

コミュニティシステム分野: 地域産業、社会政策、経済地理、都市環境、地方自治法、地方財政

ビ ジ ネ ス 分 野: 経営管理、人事労務管理、経営情報システム、会計

国際コミュニケーション分野: 世界経済構造、日朝関係史、中国経済、中国近代史、国際コミュニケーション、現代中国語、西洋思想

※特別選抜試験の実施

前回に続き、特別選抜試験を実施する。これは出身大学や所属自治体・企業の推薦を受けた場合、書類選考ないし面接により可否を判定するものである。

①交流・協定校特別選抜(青島大・東義大・グリフィス大・クイーンズランド大・ボアジチ大卒業生対象)

②派遣社会人特別選抜(地方自治体・企業からの推薦)

「世界の厨房から」開催

国際交流会ともだち部長 堤 加奈子

6月28日、私たち「国際交流会ともだち」の主催で、例年行っている「世界の厨房から」というイベントを開催しました。これは、在学中の留学生の母国の料理を通じて、国際交流を図るということを目的としたものです。

今年は、チャーハン・トマトと卵のスープ（中国）、トッポキ（韓国）、キョフテ（トルコ）、カノンバンナムー（タイ）、ラミントン（オーストラリア）、ちらし寿し（日本）の6カ国の料理を用意し、市民の方や学生たちに各国の料理を楽しんでいただきました。

舞台では、よさこいダンスサークル震度10による踊りの披露や下関朝鮮初級中学校の生徒によるカヤグム演奏・踊りがあり、来場された市民の方や学生はもちろん、在学中の留学生にとっても、異文化を楽しむ良い機会になったと思います。また、各国の言葉や観光地などを国ごとに示した展示も行いました。

これからも、このようにサークルメンバーだけでなく、他の人にも国際交流を行ってもらえるような機会を増やしていき、地域での国際活動に協力できればと考えています。

11月2日の学祭では、他大学の留学生にも参加していただき、「日本語弁論大会」を開催します。普段聞くことのない留学生の本音をスピーチしていただくので、日本に住む日本人にとっては、気づきにくい、新しい視点から見た日本や下関の姿を知ることができると思います。ぜひ、ご来場ください。

最後に、悪天候の中、お越し下さった市民の方々、学生の方々に礼を申し上げたいと思います。



《第20回市民大学》

◎語学とコンピュータ講座

会場：下関市立大学

○英会話中級（定員40名）

講師：R.ビーン（下関市立大学常勤嘱託講師）

日時：10月2日～12月18日（全12回）

毎週木曜日 午後6時30分～8時

○中国語会話初級（定員40名）

講師：于華（下関市立大学常勤嘱託講師）

日時：9月24日～12月10日（全12回）

毎週水曜日 午後6時30分～8時

○朝鮮語会話初級（定員40名）

講師：李亮（下関市立大学常勤嘱託講師）

日時：9月24日～12月10日（全12回）

毎週水曜日 午後6時30分～8時

○初心者のためのパソコン入門

～キーボードの練習からインターネットの利用まで～

講師：永田和代（下関市立大非常勤講師）

日時：9月26日～11月14日（全8回）

毎週金曜日 午後6時30分～8時

◎連続テーマ講座：

「市町村合併とこれからの下関」

現在、わが国の市町村数は約3200であり、これを合併によって1000程度にしようというプロジェクトが全国的に進められている。下関市も例外でなく、豊浦郡4町との合併に向けて現在話し合いがおこなわれている。政府の行政改革に伴う地方分権化が加速する中、下関市ならびに周辺自治体は今後どのような将来構想を描いていくのか。本講座を通して、行政や大学関係者に市町村合併の問題点やビジョンを語ってもらうことで、市民との対話の場を提供できたらと考えている。

会場：下関市立大学

時間：午後6時30分～8時

【講演】

第1回 11月10日(月)

太田周二郎（下関市立大学教授）

「市町村合併の光と影——地方分権改革に問われているものとは——」

第2回 11月12日(水)

三木潤一（下関市・豊浦4町合併協議会事務局長）

「合併協議会の状況について」

第3回 11月14日(金)

山本善積（山口大学教育学部教授）

「高齢者の生活からみる『合併』問題」

第4回 11月19日(水)

吉津直樹（下関市立大学教授）

「中央集権的市町村合併をどう考えるか」

第5回 11月21日(金)

坂本紘二（下関市立大学教授）

「下関市・豊浦4町合併『新市まちづくり構想』の策定について」

インターンシップ2年目

インターンシップ委員会委員長 川 本 忠 雄

本学のインターンシップは、2001年に試行を行い、2002年度から正規の授業科目（2単位）として、実施されている。学生受入事業体も参加学生も増加傾向にあり、学生の関心もたかまりつつある。また2003年度から、本学独自のインターンシップ以外にも、学外のインターネットを利用した計画にも参加を開始した。具体的には、山口県経営者協会が実施主体（厚生労働省が支援）の「ハイパーキャンパスシステム」への参加である。これは同協会のインターンシップ計画に参加表明した企業に、学生がインターネットを通じて直接接し、実施されていくものである（単位は出ない）。2003年度は数名の学生が登録したが、マッチングがまとまるまでにはいかなかった。



イズミ広島祇園店にて

2年目であるのでここで、簡単な自己評価をしてみよう。

「長所と問題点」について。まず最初に、長所を挙げてみたい。

年々、質・量とも徐々にではあるが発展していく傾向にある。2001年度（試行）、受入事業体1、参加学生4名。2002年度、受入事業体10、参加学生26名。2003年度、受入事業体13、参加学生28名、という結果である。また本学のインターンシップは、指導がきめ細かく、「手作り（受入事業体の開拓、研修内容の事業体との協議、事務書式の整備など）」であり、マンツーマンの指導が徹底している。

あるいは、インターンシップで得られた知識・体験により、学習意欲が高まり、学内での研究・教育の活性化の兆しがみられる（報告会・演習など）。さらに、就職委員会との効果的な連携があり、2～3年次のインターンシップから3～4年次の就職活動までの流れがスムーズである。結果として、職業意識が高まり、就職先とのミスマッチが減少している。

続いて、問題点について。まず挙げられる点は受入事業体の少なさである。これは、インターネットによる場合も同様である。この原因のかなりの部分は、事業体側のインターンシップに対する認知度の低さによる。また学生の希望する業種のミスマッチが多々ある。2003年度の本学の場合、公務員、金融機関、マスコミなどの希望が多く、需給ギャップの調整に努力を要した。あるいは、多くの事業体での研修実施期間が短い。就業体験の効果を高めるためには、研修の長期化が望まれる（最低2週間）。

「将来の改善に向けた方策」

受入事業体の拡大に関しては、近隣大学（特に関門地区）との情報交換、受入企業への相互乗り入れが考えられる。単位認定の拡大について。学生は実際に、各種のイン

下関信用金庫長府支店にて



ターンシップに参加している。評価における統一基準を定め、検討していくことが必要である。また今後さらに社会的にも重視されていくインターンシップを、全体のカリキュラムの中でキチンと位置付ける必要がある（単位配分、必須科目か選択科目か、専門科目か一般教養科目か等）。今後とも、地域社会と連携し共に発展していく大学という位置付けの下、重要な科目として質・量ともに拡充されていくことが望まれる。

2003年度産業文化研究所の共同研究

関門地域共同研究会が 国際観光調査とベンチャー調査

附属産業文化研究所所長 山 本 興 治

今年度は、本学が北九州市立大学と共同で組織している関門地域共同研究会の10周年、同研究会活動はますます佳境に入ってきた。2003～04年は、国際観光調査とベンチャー調査を新しいメンバーで組織した。例えば、観光調査班では韓国からのインバウンド観光客増を政策目的として、高速船乗客調査と韓国学生観光ニーズ調査等に取り組んでいる。なお、7月24日には2002年度の報告書の成果発表会が北九州市小倉のAIM・FAZプレゼンセンターで60名の参加をえて行われた。報告書は学術センター3階の研究所ならびに図書館の「本学関係資料コーナー」に開架されていて、誰でも読むことができる。

報告書の目次を転記しておく。

- 第1部 関門地域と韓国間の経済・産業協力に関する研究
 - 第1章 地域間経済交流の制度的枠組としてのFTAと特区（北九州市立大学・尹 明憲）
 - 第2章 国際調達物流におけるSCMの現状と課題（同・池田 潔）
 - 第3章 韓国釜山と関門地域間の物流と人の流れ（本学・小林 英治）
 - 第4章 下関港における韓国貿易の実態と展望（本学大学院卒・宮田 高）
 - 第5章 関門・九州地域の半導体製造装置企業ネットワーク（本学・関野 秀明）
 - 第6章 関門地域における国際リサイクルネットワークの可能性（北九州市立大学・松永 裕己）
 - 第7章 日韓IT人材交流の現況（本学非常勤・崔 東 術）
- 第2部 関門地域の中小企業金融に関する研究
 - 第1章 福岡県の中小企業金融と地元金融機関（西南学院大学・西田 顕生）
 - 第2章 関門地域の中小企業金融の実態（同）
 - 第3章 中小製造業の銀行サービスに対する評価（北九州市立大学・木村 温人）

2003 震度 10 ～宴～

よさこいダンスサークル

国際商学科2年 迫 真 衣

私達よさこいサークルは、「震度10」というチーム名で活動し、今年で三年目になりました。主に、関門地域の活動が大部分をしていますが、中国・九州・四国、そして遠くは関西の奈良「バサラ祭り」、北海道の「よさこいソーラン祭り」、「ザ祭り」にも参加しています。よさこいというものは、高知県発祥のお祭りで、楽曲に「よさこい節」を入れること、鳴子を持つことだけで、あまり踊りに決まりがないという自由さ、楽曲のアレンジの多様化、衣装のアレンジに伴い、全国各地、幅広い年齢層の人々に受け入れられるようになりました。そのことも影響し、下関市全6大学に広がり、総勢90名のよさこいサークルとして現在活動中です。

四月の「川棚舞龍祭」を初めとし、五月には、「広島フラワーフェスティバル」に参加し、両祭りとも去年からよさこいを新たに取り入れたことにより、例年以上の盛り上がりを見せていました。

七月に熊本県で開催された「さのよいファイヤーカーニバル」では、ブロック優勝を果たしたと同時に、一年生のデビューの祭りであったので、思い出深い祭りになったと思います。

八月には、毎年本場高知のよさこい祭りが開かれています。今年で第50回という節目の年に私達は単独出場を試み悪戦苦闘しましたが、本場のよさこい祭りに無事参加することができたのも、学長をはじめ教授、関係者の方々からの応援を頂いたからこそ成しえたことと思います。高知では、去年の馬関祭りから踊り続けてきた「震度10～華～」の踊り納めでもあり、一年間みんなで踊り続け、数々の賞を受賞した楽曲が本場高知で最後ということは、



本当に良い思い出になりました。馬関祭りでは、今年の新曲である「震度10～宴～」を衣装も新たに皆様に初披露しました。よさこいを教えた山の田小学校の演舞もあり、よさこいによって地域の人たちと交流できることをうれしく感じています。最近では、県内外の小・中・高校などから、よさこいを教えてほしいという依頼も来るのが多くなり、出来る限りの範囲で協力しています。これから、福岡での「福こいアジア祭り」、長崎での「よさこい佐世保祭り」などに出場が予定されています。もちろん十一月の学園祭でも演舞させて頂く事になっています。よさこいを多くの人に知ってもらい、目で感じるだけでなく、実際に踊って、ふれて感じ一緒に楽しんでほしいと思います。これからも、震度10への皆様のあたたかい応援よろしくお願いします。

教員著作目録

(2002年4月～2003年3月)

- 木村健二：(共編著)「京釜鉄道株式会社の株主分析」『姜徳相先生古希・退職記念 日朝関係史論集』新幹社、2003.3
- 高嶋正晴：(共訳)D・ヘルド著、中谷義和監訳『グローバル化とは何か——文化・経済・政治——』法律文化社、2002.10、(共著)西成彦・原毅彦編『複数の沖縄——ディアスポラから希望へ——』人文書院、2003.2
- 田中裕美子：(単著)「スウェーデンにおける労働時間短縮とジェンダー」『社会保障制度とその周辺領域』、法律文化社、2003.1、pp.177-187、田中裕美子・坂田桐子「女性の就業と課題」横山博司・岩永誠編著『ワークストレスの行動科学』北大路書房、2003.3、pp.27-46
- 丹下 栄：(単著)『中世初期の所領経済と市場』創文社、2002.10
- 中嶋 健：(共著)古岡井昌喜編『スポーツ科学へのアプローチ』学術図書出版社、2002.4
- 濱田英嗣：(単著)『ブリ類養殖の産業組織』成山堂、2003.3
- 平岡昭利：(共編)『関東Ⅰ 地図で読む百年 東京・神奈川・千葉』古今書院、2003.3、(共編)『関東Ⅱ 地図で読む百年 埼玉・群馬・栃木』古今書院、2003.3
- 堀内隆治：(単著)『福祉国家の危機と地域福祉』ミネルヴァ書房、2003.3
- 山田留里子：(共訳)竹内実監修『長江——正義と勇気的大海へ』(下巻)晃洋書房、2003.3、(共著)『中国語の調べ』駿河台出版社、2003.3、(監修)『中国語資格検定試験対策シリーズⅠ——3級・4級ヒアリング』(上巻)駿河台出版社、2003.3、(監修)『中国語資格検定試験対策シリーズⅠ——3級・4級ヒアリング』(下巻)駿河台出版社、2003.3
- 山本興治：(共著)三村真人他編『交通と文化の史的融合』八千代出版、2002.12
- 横山博司：(編著；共編著者 岩永誠)『ワークストレスの行動科学』北大路書房、2003.3、(共著)生和秀敏編『心の科学』北大路書房、2003.4

同窓会のコーナー

我が青春記「カナダでの思い出」

下関市立大学3期卒 柴田 勝 利
(進学塾「柴田塾」塾長)



32年前、私が27才の時初めてカナダのバンクーバーを訪れました。学生時代、英語を勉強してはきたけれども会話はそれ程十分ではなく、当然不安を感じていましたが、どうしても外国へ行きたいという願望がこの障害を乗り越えさせました。バンクーバー空港に着いたその時から、勉強の為の英語ではなく生活をする為の英語ということで、なにか新鮮な感じを受けた事を覚えています。

一週間ホテルに滞在したあと、チェコスロバキア出身のエルシーおばさんの家に住むことになりました。早速、私はガーデナーとして働き始めました。カナダでは工場、住宅、その他建物の周囲は緑々とした芝生で囲まれており、芝生を刈ったり、植えたり、花壇の世話をしたりしました。ボスが私にすべてをまかせてくれるようになってからは仕事の段取りとか計画を自分でできるようになり、仕事場から仕事場へと仲間をトラックに乗せて、ハンドルさばきも軽く私は快適なドライブを楽しむこともできました。

肉体労働ですからきつい仕事ですが、とてつもなく広大な美しい自然の中での仕事は私を満足感で一杯にしてくれ

ました。夕方帰宅し、家族の人と夕飯の時を迎えます。エルシーおばさん、デビーという18才の孫娘、デビーのいとこのリッキーという17才の男の子、そして私と、家族は4人です。食事をしながらお酒を飲んだり、おしゃべりをしたり、それはもう賑やかなものです。彼らとの夕食の一時は昼間の疲れを忘れさせてくれました。毎週一・二度は夕食後、私はきまって友人達とグランビュ通り（最も賑やかな通り）にあるクラブに行って酒を飲みジョーを楽しみました。エミリーというダンサーはとても美しく踊りも上手ですし、私の好きなお酒「クラウン・ロイヤル」とくればもう最高です。土曜日の夜は翌日バーナビー・ゴルフコースでのゴルフ（毎週日曜日午前10時スタート）を控えているにもかかわらず、酒の勢いもあって友人達とおそくまで議論を交わしたものです。

私はもともと控え目な性格（と思います）でしたが、友人達にすっかり変えられてしまいました。しかし今ではこのような人間に変えてくれたカナダという国と友人達にとっても感謝しています。金曜日の夜はバンクーバーコミュニティセンターでカナダの人達に剣道を教えました。精神修業、これが剣道の最大の目的であり、これを外国人に教えるのは難しい事ですが、……ここが大事なところで指導する以上は妥協は許されません。真の武道を完全に理解するにはやはり日本での実生活を体験すべきであり、語学についてもそのような機会が得られればベストだと思います。バンクーバーで数年過ごした後、すばらしい思い出を残しながら三か月余りかけてトロント、ニューヨーク、サンフランシスコ、ハワイを経由して帰国しました。

あれから30年程過ぎた今、中国語を学んでいます。ハルビン出身の先生から出された宿題論文の中でこう書いています。「現在中国語を学び始めてから2年程経ちました。難しいけれども中国語を学ぶのはとても楽しいです。この間、北京、万里の長城、上海、蘇州、南京、桂林と4回かけて旅行しました。中国は何か日本の“母”のような感じがします。いつか留学して、それから後、ゆっくりと中国各地を放浪してみたいです」と。中国が“母”であればカナダは私にとっては“父”だったのかなと過ぎし日々を思い出しています。

第9回下関市立大学同窓会「'03みやざきの集い」開催

学生部長 吉 津 直 樹

同窓会の全国の集いは毎年持ち回りで開かれており、昨年は東京で開催されましたが、本年度は7月12日に宮崎（宮崎観光ホテル）で開かれました。前日の豪雨で日豊本線が一時不通になるなどの災難がありましたが、南国宮崎はよい天気に恵まれ、九州各地はもとより、東京、関西など全国15支部から150人が参加しました。

本学からは私と、佐々就職委員長が出席し、本学を代表して私が昨今の大学の現状や課題などを話し、同窓会のさらなる充実を願い、本学へのよりいっそうの協力をお願いしました。

会場は同期生ごとにテーブルが設けられ、参加者は宮崎名物の地鶏や冷や汁を味わい、豊稔と安産を祈願するなんともユニークな踊り「ひょっとこ踊」、かつて学生時代に所属していたハワイアンサークルOBの見事な演奏などを楽しみながら、近況を報告したり、久しぶりの再会に肩をたたいたりして、笑顔で語り合っていました。南国宮崎だけに底抜けに明るいムードを演出された永野宮崎県支部会



長や早川実行委員会委員長をはじめとする宮崎支部の皆さんの巧みなお世話ぶりが際立っていました。

最後に、来年を引き受ける熊本支部への引継ぎが行われ、熊本支部の皆さんから「楽しい会にしますので期待してください」との挨拶がありました。

この同窓会の様子は翌日の宮崎日日新聞に写真入りで紹介されたほか、翌々日には「旅のひと」と題して私の宮崎にきてのインタビュー記事も掲載されました。「宮崎出身の学生は実に純朴で磨けばひかる」との言葉に、卒業生である記者も満足そうな表情でした。

なお、下関市立大学同窓会は、現在会員12,872名（平成15年4月1日現在）、1本部15支部です。

新任教員挨拶

池 田 清
(地方財政論)

はじめまして。私は北九州市立大学から参りました池田清と申します。大学を卒業後、民間企業、市役所、大学院生そして大学教員と、産、官、学の畑を歩いてきたことになります。この3つの領域は、それぞれメリット、デメリットを持っていますが、どうも現在の日本はデメリットばかりが目について閉塞感が漂っているようです。私は、専攻の地方財政論(都市論)からメリットを相互に生かす道を考察したいと思っています。

下関市立大学の教員と職員の皆様は、とても親切で大学も巨大な総合大学にない良さを持っているように思いました。20世紀が大きさや速さで競い合う価値観とシステムの時代であったとすれば、21世紀は環境や文化、人と人とのふれあいが求められる地域の時代であるようです。シューマッハの「small is beautiful」こそがキーワードとなる時代です。前の大学のゼミナールでは、現場を重視したフィールドワークを取り入れ、環境問題の原点である水俣、巨大な公共事業の諫早干拓、北九州市のNPOやエコタウン、湯布院や綾町のまちづくりなどを調査してきました。下関市立大学でもフィールドワークで学生とともに学んでいくつもりです。皆さんどうぞよろしくお願いします。

私の教育・研究

武 井 満 幹 (中国語)



中国語の授業を担当しています。授業では、声に出して読んで覚えること、語法を理解することに特に重きをおいています。中国語は発音が難しいですが、その習得には実際に声に出して練習することが不可欠です。頭で考える前に第一声を発しましょう。中国語は漢字を使って表記し、日本語も漢字を使います。ですが発音は異なります。例えば「dàxué」という音は何を意味しているのでしょうか。この語は日本語では「だいがく」と読みます。そう「大学」です。「大学」を「dàxué」と発音でき、「dàxué」という発音を聞いてその意味や漢字がわかるというように、中国語の音で読み、中国語の音で理解することが大切です。語法は、中国語の意味をとらえるために必要です。基本を理解しておけば、辞書を引ながらでも文学作品、新聞、論文作成のための文献を自分の力で読んでいくことができます。語法も難しいですが、しっかり学んでいってほしいと思います。

私の研究分野は中国文学です。時代は六朝(りくちよう)或いは魏晉南北朝(えいじんなんぽう)と呼ばれる時代の文学で、特に陶淵明(たうえんめい)という詩人の文学を研究しています。語学の授業では、私の専門を教えることはできませんが、古典文学を活用することはできます。いずれは教養演習で古典文学を扱った授業を開講しようと思っています。中国語を学習するみなさん、古典にも興味をもって下さい。

小笠原 正 志
(健康科学)

皇室の雅子さまと全く同じ日に生まれ、10月の赴任時には40歳一步手前。公害で有名な三重県四日市で紅白の煙突を見て育ち、高校卒業後、茨城県の筑波山麓で6年間修行。その後、関門海峡を渡り、福岡市に住みついで16年。今では博多祇園山笠の締め込み姿もさまになる博多っ子になりました。ちなみに小倉の殿様とは何の関係もないようです。

中学から始めた柔道では芽が出ませんでしたが、受け身が上手だったせいか、後輩の山口香先生(現筑大コーチ)の投げられ役で毎度テレビに出演。得意技の逃げ腰と口車は、今でも健在です。くれぐれもご注意ください。

ところで、我が国では運動不足や過食により、生活習慣病にかかる人が増加しています。私の研究課題は、これまで福岡市健康づくりセンター等で健康運動指導士として働いてきた経験を活かし、行動科学的手法を用いて運動を習慣化させるのに効果的なプログラムを創ることです。宮本武蔵の二刀流のごとく、地域社会に貢献する研究とその普及は、私に課せられた二つの使命と思っています。

近年、若者の体力低下が危惧されています。私も体重こそキープしていますが、お腹の脂肪が気になってきました。一緒に楽しく体を動かし、少し身を軽くしましょう。そして、心を開き、語らい、共感しましょう。人とのつながりは一生の財産です。新しい出会いを楽しみにしています。

下関日中友好協会主催の中国語弁論大会



経済学科4年 藤 井 亮 光

私は、7月2日(水)に市大にて行われました下関日中友好協会主催の中国語弁論大会に参加しました。私は実行委員として、また出場者としてこの大会に関わることによって大変大きな充実感を得ることができました。多くの人に助けられ、支えられることによって、ひとつのことを成し遂げることができたという今回の経験は、今後の学生生活ひいては人生においてもきっと大きな糧となり、自分の中に生き続けるものであると確信しています。

国際商学科3年 小田原 理 沙

今回、中国語の司会をやらせてもらいました。不安がいっぱいありましたが、最後まで頑張ってよかったと思いました。応援してくれた方々に感謝します。多謝了。

国際商学科3年 徳 富 美 恵

今年で三度目の出場です。今回入賞できたのは周りの方々の協力があったからです。弁論大会は参加者だけでなく、陰で支えてくれるスタッフや聞きに来てくださる方々みなでつくられるものだと思います。お集まりくださった方々に感謝しています。貴重な経験をさせていただき、よい思い出となりました。ありがとうございました。

サークル紹介

ベンチャービジネスサークル下関

部長 東 聖 士

「ベンチャーって何をしているの?」という質問をしばしば耳にします。私たちベンチャービジネスサークルは、「挑戦」というスローガンに基づいて様々なことにチャレンジするサークルです。従って定められた特定の事をやるのではなく、学生同士で意見を出し合い、企画を練って実行する活動をしています。活動の理念は「下関の活性化」。その中でも私たちは学生の立場でこそこできる下関の活性化に焦点をあててイベントを行っています。

これまで、就職支援イベント「就職革命」や「地域活性/全員集合」などのイベントを主催したり、下関商店街グリーンモールにて行われたリトルブサンフェスタに、学生として初めて出店したりしました。

こうしたイベントを行うことにより得られるものは、一つのイベントを行うためのノウハウ、社会人の方々との出会い、そして他大学の学生との交流のチャンスが多くなるなど、様々なものがあります。私たちは、そうしたお金では買うことの出来ないものを利益として活動しています。

私たちは新しいことに挑戦していくので、初めてのことも多く、戸惑いがあったり、討論を重ねることもしばしばです。しかし、一生懸命に取り組み、前向きに行動し、自分にとってプラスになるように頑張ってきました。そしてこれからも新しいベンチャーのために、日々挑戦する気持ちを大切に活動していきたいと思っています。



市大運動部 活躍する!

今年度、今日現在までに活躍した運動部の紹介をしたい。

☆ソフトテニス部 関北インカレ 女子団体優勝5連覇
 ☆曾我法精君 関北インカレ 男子円盤投げ3連覇(国商4年)
 ☆サッカー部 天皇杯サッカー予選山口県ベスト4
 中国リーグ1部昇格

第42回馬関祭について

今年もいよいよ大学祭の季節になりました。今年は10月31日(金)から11月3日(月)の日程で実施すべく準備しています。

今年は昨年「41-DON!」というテーマのもと、新しいスタートを切ってから、「RUNNERS HIGH」と

いうテーマのもと頑張っていこうということになりました。このテーマは、マラソンなどをしていて最初は苦しいが、走っているうちにだんだん気持ちよくなる現象のことで、様々な苦難を乗り越えて大学祭を盛大に盛り上げ、気持ちよく終わらせようという意気込みがあります。大学祭をより盛り上げるために、皆様お誘い合わせの上お越し下さい。たくさんの方々がいっしょのことを心からお待ちしております。

大学祭日程

- ・10月31日(金) 前夜祭、ふく鍋
- ・11月1日(土) 演武会
- ・11月2日(日) 山本華世講演会
- ・11月3日(月) B-DASH コンサート

教職員異動一覧

新任教職員

氏 名	担当科目	前 任	着任年月日
池 田 清 教 授	地方財政論 財政学	北九州市立大学	H.15.10.1
小笠原 正 志 助教授	健康科学 スポーツ実践	健康科学研究	H.15.10.1
田 島 文 子 事務 次長補佐		商工振興課	H.15.6.1
片 岡 俊 勝 事務 次長補佐		保険年金課	H.15.6.1
山 崎 優 子 会計係長		教育委員会 総務課	H.15.6.1
浜 崎 智 子 主 任		王司支所	H.15.6.1
中 野 武 志 嘱 託			H.15.6.1

異動職員

氏 名	異 動 先	異動年月日
新 内 和 美 課長	こども課	H.15.6.1
近 藤 保 子 主査	市民サービス課	H.15.6.1
木 本 恵美子 主査	小月支所	H.15.6.1
松 村 友理子 主事	社会福祉課	H.15.6.1
永 田 弘 芳 嘱託	退職	H.15.6.1

行事記録(2003年6月~8月)

- 6月1日(日) 開学記念日
 13日(金) 第1回就職ガイダンス
 26日(木) 入試説明会
 7月9日(水) 春学期(前期)試験時間割発表
 16日(水) 春学期(前期)補講 7/18まで
 19日(土) 夏季休業開始 8/31まで
 21日(月) 夏季集中講義開始
 28日(月) インターンシップ 9/21まで
 8月2日(土) オープンキャンパス

本号の編集に携わって改めて「本学らしさ」を実感した。キーコンセプトは、「きめ細やかな学習・就職指導」「国際化への取り組み」といえるかもしれない。他大学にない高いクラブ活動加入率も注目に値する。池田教授が指摘するように、「競い合う価値観」とは別の「人と人のふれ合い」を大切に作る風土が本学にはある。(衛藤)